

## 令和6年度 第1回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和6年6月24日（月）午後6時30分から午後8時まで
- 2 開催場所 伊東市役所高層棟8階大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員17人（欠席1人）  
市長、中村副市長、岸副市長、教育長、理事、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）

### 4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 委員の委嘱
- (4) 自己紹介
- (5) 閉会

### 5 会議概要

- (1) 開会  
企画課長から開会
- (2) 市長挨拶

本日はお忙しい中、第1回目の未来ビジョン会議の開催にあたり、ご出席を賜りまして、また、快くご就任をいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃本市の行政運営にご理解ご協力をいただきまして、改めて御礼を申し上げます。この未来ビジョン会議でございますが、私の公約でございますが、若い世代の市民の皆様から、新たな視点による意見やアイデアをいただいて、これからの伊東市の政策や事業の推進に反映させることを目的として、平成29年度、私が市長に就任したときから開始しております。これまで、子育てについて、新図書館や文化ホールについて、アフターコロナについて、住んでみたい住んでいたいまちづくりなどのテーマにて実施し、昨年度は市内高校生の皆様からも大変貴重なご意見をいただきました。今年度も高校生にご参加いただいております。大変嬉しく感じております。引き続きよろしく願いいたします。

また、今年度ですが、今から23年後となる市制施行100周年、まだかなり遠い未来でございますが、その時点における伊東市のあるべき姿を描いて、これに進んでいくということを目指して、夢と希望を形にできる未来を実現するため、次世代を担う市の職員による長期ビジョン策定検討会というものを初めて設置いたしました。皆様との意見交換会も設ける予定でありまして、活発な意見交換となることを期待しております。

- (3) 委員の委嘱  
小野市長より委員に対し委嘱状交付  
※委員の任期は、令和7年3月31日まで
- (4) 自己紹介  
当局・事務局から自己紹介

#### 【市長】

それでは、座長として会議運営をさせていただきます。ご協力をお願いします。

1回目ということで、自己紹介と皆様が日頃お仕事や学校生活、また子育てや生活する中で、伊東市のまちづくり等を感じている課題や期待していることを、自由に発言していただければと思います。緊張されている方もいるかと思いますが、この未来ビジョン会議は、私と皆様がざっくばらんに意見交換をする場にしたいということが大きな目的でございますので、遠慮せずに率直な意見をお願いしたいと思います。トップバッターは、A委員お願いします。その後、A委員から時計回りでお願いします。

#### 【A委員】

伊豆高原観光オフィス、地域おこし協力隊のAと申します。

私は、ちょうど今月の末で伊東市に来て丸2年になります。その前は東京にずっと住んでおりました。普段は伊豆高原観光オフィスの業務全般をやっておりますが、仕事以外の時間に絵を描いております。伊東市に来たきっかけも、旅行で何度か来た際に、海に入ったりして、山も海もあって、自然も豊かな環境で絵が描けたらいいなという思いがあって、こちらに移住してまいりました。伊豆高原観光オフィスの掲げる3つの目標に、自然、アート、ペットがあるのですが、なかなか私が来てからもアートの方に着手できていない部分がありまして、あと私も普段、絵を描いていることもあり、ちょっとアートの部分を、残り1年弱でできたらいいなという思いがあります。以上です。

#### 【B委員】

私は、富士伊豆農業協同組合というところに勤めておりまして、本店の方に所属しております。本店での仕事は、主に東部地区の営業のトレーナーというところで働いておりまして、いろいろな地区にお邪魔させていただいております。そういった中で、私生まれも育ちも伊東ですけども、今家族が4人で、妻と子供2人です。率直に思うのは、やっぱり伊東ってすごいところだなってことです。私、趣味としましては、釣りとかサーフィンをやっておりますし、休みの日は大きな公園で遊んだりとか、子供を海に連れて行って遊んだりとか、伊東って魅力的な街だなって歳をとればとるほど、感じております。

そういった中で、僕の仕事を通してなんですけども、地元密着の企業ですので、地域のお客様といろいろなお話をする機会もございます。お客様の声を聞きますと、どうしてもやっぱり物価の上昇でありますとか、ちょっと生活が苦しくなってしまうとか、そういった様々なお声を聞きます。

今回テーマとしまして、まちづくり等について、期待したいこととございますか、まちづくりでやはり一番重要になるのは、この地元地域が活性化すること、そこに尽きるのかなと思いますので、この未来ビジョン会議を通じて少しでもそのお役に立てればいいなと思っております。以上です。

#### 【C委員】

静岡県中小企業同友会伊東支部から参りましたCと申します。よろしくお願ひいたします。同友会が何かと言いますと、企業の集まりでその中で今年は自分が選ばれ、参加させていただいております。B委員さんからサーフィンの話が出ましたが、私もサーフィンをやっております、共通の海とか素敵なものがあり、私も伊東生まれなもので、伊東はすごくいいと思います。

私は、川崎とかに出ていたのですが、帰ってきたとき、やはりちょっと寂しいなど。夜7時ぐらいになると、もう真っ暗です。少ない観光客の中でも、食事処を探す姿が見えて少し寂しいかなとは思いますが、経営者の意見を聞くと、やはりお客さんが来なければ、開けられないとのこと。観光客の方たちは、1回の観光がもう全てなので、その寂しい時期に来てしまうと、それが広がってしまうというところがあると思います。その負の連鎖を立ち切っていきたいと自分は経営者として思っております。

そしてもう一つが、防災もすごく注目しております。一番近いところで言うと能登半島の地震がありました。皆様ご存知のようにあの地図逆さにすると伊豆半島ですね。なので、防災がしっかりした街に住みたいかなと自分は思っております。以上です。

#### 【D委員】

伊豆伊東高校の教員として委員に選出していただきました。まずは今年度も伊豆伊東高校に声をかけていただき、ありがとうございます。そして今回は5名の生徒を委員として参加させていただきまして、ありがとうございます。私は前年度も未来ビジョン会議の方に参加させていただきまして、観光や交通のことについて様々な議論をさせていただきました。1年の経験を踏まえて、今年度はちょっと積み上げ方式で、またいろいろな議論ができたかなと思っています。中でも今回はですね、メインテーマが第十二次基本計画に向けていろいろ進めていくということだったので、私自身観光と教育に少し注目して考えていきたいかなと思っています。基本計画の実施計画の方に、年間来遊客数というものがありました。こちら令和6年度の目標値が725万人ですが、こちらの方に少しでも尽力できる意見が提案できればかなと思っています。

昨今、インバウンドが継続しておりまして、ニュースでも取り上げられるぐらい観光には日本全体で注目度が上がっています。伊東市も外国人観光客が増えていると思いますので、他の市に遅れを取ることなく、いろいろ手立てを考えていきたいかなと思っています。テレビで見た知識ですけれども、短期的、中期的、長期的なプランをしっかり立てることによって、こちらの年間来遊客数などは目標値に近づくのではないかなと考えていますので、その辺の意見はグループ会議を通じていろいろお話していきたいかなと思います。

最後に教育です。学校でも未来学という形で探究活動の方を推進しています。今回、高校生が5名来ていますので、この5名はきっと有意義な時間を過ごさせてもらえると思うのですが、そのいいところを伊豆全体に反映させていきたいかなと考えていますので、伊東の魅力をより広めるような手立てを考えていきたいかなと思っています。

#### 【E委員】

東海自動車の広報などを担当しております。私自身のことを申し上げますと、私は横浜出身で大学を卒業するまで横浜に住んでおりまして、就職と同時に伊東に来まして、20数年、伊東の方が長くなっているというような状況でございます。子供も3人おりますが、一番上の娘が東京の方で就職をしまして、また戻ってきたらいいなというふうに思っているところであります。私自身は、伊東が住みやすいつことで20数年住んでいるわけですが、伊東は住みやすいというふうに心から思っています。私は会社では採用なども担当しておりまして、なかなか要員不足ということもありまし

て、伊東市内だけでは賄えず県外から人を呼ぼうということで、移住をされた方に家賃5万円、2年間補助する施策などを打っているところでございます。伊東はとても良いところですので、多くの方に移住をしていただき、一緒に頑張っていければというふうに思っております。また、住みよいまちづくりということで、いろいろと皆様と意見を出し合いながら、人口も増やしていくような施策を打ち出していければいいなというふうに思っているところでございますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### 【F委員】

伊豆急グループの方から出席しているFと申します。令和4年度、5年度に引き続き、よろしく願いいたします。仕事の方は伊豆急コミュニティという会社の方で遊休資産等の活用を企画する業務というとなんかすごい感じに聞こえてしまうのですが、一応そういうものを担当しています。出身は東京の立川で、以前は零細企業に所属しており、国の会議とかの自治体の議会の議事録を作るということを行っていました。とあるアニメ作品を通じて沼津市に愛着を持ったりとか、公共交通の政策に興味を持ったりして、それで伊豆急の方に転職したような流れになります。

本日は伊東市の交通まちづくりについてと、お配りした資料に関連することと二つを申し上げたかったのですが、ちょっと時間が足りないので、お配りした資料の方を手短かに申し上げさせていただけたらと思います。こちらがお金についてなんですけども、これまでの私の令和4年度、5年度の発言のバックボーンとなる認識でもあるので、自己紹介にもなります。多くのお金というのが、大昔の小判のように金や銀に価値が裏付けられたものというふうに思っておりますけれども、現在における貨幣とは信用のある借入金になります。例えばAさんがBさんから1,000万円を借りると、当然AさんはBさんに借金を返すための借入書を提出します。ですが、このAさんは浪費家であつたまま1,000万円を借りたものの、実際は1か月に1億円を稼ぐ人だから、BさんはそのAさんの信用を背景に借入書を第三者との取引で使うことができます。これがまさに貨幣となります。銀行で集められた預金を人々に貸し出すというよりは、融資先の口座に無から貸し出しを行って無の状態から銀行預金という一種の貨幣を創造することができます。これを信用創造といって、イギリスの中央銀行であるイングランド銀行もこれが正しいと解説します。国家についてはどうかって話しですが、資料にウォレン・モズラーという人の逸話が載っており、この名刺のお話の通りです。ルールを定めて、そのルールのもと、その税金を納めなさいということでやることによって、みんなこの貨幣を欲しがるということで、その下の逸話を見るとわかりますが、貨幣というのは国家のガバナビリティーによって信用が生まれて国全体の労働力をはじめとした生産能力を動かしたり、高めたりするツールであつて、その生産力の範囲内であるならば、貨幣の発行を増やすことが可能ということです。また、その貨幣を使って物やサービスをどれだけ調達し動かせるか、要は国の生産供給能力が最終的なその貨幣の信用に繋がります。何が言いたいかという話ですが、まず、ここ伊東市は違いますけど、国家において税金は収入ではないです。先に貨幣発行がなされて、その後に税徴収があるのが実態です。雑な資料ですけど、資料の2-1から2-5の流れによって、財務省の国庫証券による貨幣発行を支払い、政府や日本銀行からの国債発行などの信用創造がなされて、最終的に公共事業や公共調達などが行われて、民間が銀行に持つ預金という貨幣が増えるという流れになります。まとめると、国家は家計や企業会計とは違って、国定信

用貨幣を発行でき、よく言われる財政破綻もありえません。ただ、その制約自体はあって、その経済全体のものとかサービスの生産供給能力という制約はあります。要は、インフレとかデフレとかそういったところが基準になるよっていうことですね。その点について自民党の西田さんという議員なんかも質問して、日銀の副総裁、雨宮さんって人がそれを認めたりもしており、何が言いたいかっていうと、伊東市さんの方で国の方に、もう国の方にもっとその声を上げて、インフラ整備とか、あるいは、公共交通の支援とか、そういったところで声を上げていただきたいなど。結局資料にもあるように、諸外国と比べて日本って財政支出っていうのをずっと増やさなかった、それゆえに失われた30年という時代ができてしまったということがデータで裏付けられておりますし、今は、実質賃金が25か月連続のマイナス記録を更新したりとかをしておりますので、伊東市の方でも貧しい地方の貧しい経済というツケを未来の世代に残さないために、財務省みたいなところに積極財政を行ってほしいと継続的に声を上げていただきたいと思う次第です。本当はちょっと公共交通の政策についても、いろいろと申し上げたかったのですがここまでとさせていただきます。すいません、ちょっと訳のわからないことを申し上げているようにも思いますけれども、1年間よろしく願いいたします。

#### 【G委員】

私は市PTA連絡協議会の方から、この場に来させていただいております。私は南小の家庭教育委員長ということで、家庭教育において、どのように有意義な教育を行って子供たちの成長、健やかな成長を願っていくかと、何かそういった取組が任期の期間中にできればなど思っております。また今後、市P連の方からのいろいろな要望をこの場を通じまして伝えさせていただければなど思っております。現時点では、様々な悩みを持ったお父様、お母様、保護者の方がいらっしゃいます。それは子供たちの成長をどのようにサポートしていくかと、そして親として保護者としてどのように子供たちを教育していくかと。学校教育、家庭教育、地域教育とですね、教育における場所っていうのはいろいろな場所がございますけれども、その重要な部分を担うのが家庭教育でございます。この家庭教育、一つの指針を示すのもそうでございますし、それぞれのやはり親と子供の繋がり、絆というのを深めていきながら、親が得意とする親の長所のようなものをどんどん伸ばしていく、そういった行政をしていただけることでその親の背中を見て、子供たちが育っていくのではないかなと。それが一つの自然な教育の流れではないかなと思っております。

また、話は変わりますが、私は一昨年の秋に移住してきました。新潟より来ました。そして、去年の7月の終わりですが、ガンの末期だった母親が、何とかこの伊東で最期を迎えたいということで、わがままも言いましてですね、無理やり転院をさせていただきました。そして、最初、母を受け入れてもらえるのかなと思ったところですね、先生方も優しく、そして看護師さんも決して末期の患者さん、そして家族に負担をかけない、後悔をさせないで最期を迎えられるようにすることが一つ伊東の医療ビジョンだということを伺いまして、本当に心から感謝しております。去年の10月、母は他界しましたけれども、伊東の海を見ることができて、暖かいところで最期を迎えられて、本当によかったなど思っております。こういった意味で健康都市、そして長寿のまちをぜひ作っていただきたいなど思っております。

あと観光におきましては、今度タライ乗りがありますけれども、外国メディアもいっぱい来ておりますので、インバウンドも見据えて、さらにそういったメディアをどんどん取り込んでですね、効果的な発信をしていただけるようお願いをしていきたいと思っております。1年間よろしくお願ひいたします。

#### 【H委員】

伊東商工会議所青年部、気鋭の会より参りましたHと申します。私は、3年前に埼玉県の本庄市というところから嫁いでまいりました。本庄市は伊東市とどこことなく似ていて、自然が多く、人口も伊東市より1万人多いぐらいの市でした。そんなところからですね、3年前に参りまして、まずちょっと感じたところが、昭和感がどこもなく残っている伊東、そして観光資源にこんなに恵まれていて、見るところ、食べるもの素晴らしい市だなというふうに感じています。

ただ、これだけ素晴らしい観光資源があるのであれば、もうちょっと人を呼べるのではないかなと思っていました。あとは、地域柄、どうしてもしょうがないのかなって思うところもあるのですが、道がなんととっても、狭い、歩道も狭いです。街灯が少ない、そこは非常に感じています。歩道で歩いている人を轢いてしまうと思うような、そのくらい暗かったりするので、何度か危ないっていうことがありました。それと同時に、防災の方ですけれども、私はその本庄市というところで、10年前から女性消防団員っていうことで、まだその頃男性ばかりで、私が1号だったのですが、女性でも、やる気のある消防団員だったら、今は消防団員もかなり減っていると思いますので、なかなか出てくれない男性団員がいるなら、やる気のある女性団員を入れてもいいのではないかなというので、10年前に市の方で協議していただいて、入団することができました。

そういった感じで、もっと女性が進出できるような団体があったり、そういうシーンに協力できるようなことがあれば、もっともっと変わってくる要素もあるのではないかなというふうに感じています。1年間頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

#### 【I委員】

伊東市の方でNPO法人R-shipを運営しているIと申します。私は、R-shipというところで、キネマ通り商店街の中でアンテナショップぬくも一を運営していたり、I TO MARCHEというので、月に1回程度、イベントをさせていただいております、伊豆伊東高校の皆さんにも来ていただいて、ご協力をいただいております。私自身はこのR-shipを前代表から4月に引き継いだばかりでして、実際自分の住まいも今現在は東京にございます。なぜ伊東市に惹かれたかといいますと、他の委員の方もおっしゃっていたように、伊東にはすごいポテンシャルがあるなというのと、私自身伊東にある海、魚、温泉が好きというのがございます。したがって、R-ship以外でも仕事をしているのですが、将来移住したいなと思っており、そのためにR-shipとして活躍したい、地域の皆さんと仲良くしていきたいと思って、足を踏み入れています。

そのようなところで私が伊東市の課題だなと思っているのは、先ほど他の委員の方、C委員もおっしゃっていたのですが、やっぱりちょっと寂しいかなと。初めて来たときに、駅前商店街が少し寂しく、おそらく観光客の方もここを通ったら次は来ないなというのをひしひしと感じました。なので、私自身商店街の中に身を置くものとして、何と

かしていきたいと思い、いろいろ仕掛けていきたいと思っております。賑やかにするにはやはり、私、今年47になるのですが、こういった人間よりも若い人のパワーが必要だと思っているので、ぜひ高校生の皆さん、商店街に来たいと思うような作りを仕掛けていきたいと思っていますので、そのような感じで、伊東市を盛り上げていきたいと思っています。やりたいことはいっぱいあるので、皆さんと1年間議論し、アイデアを作り上げて、少しでも形にしていけたらなと思っています。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【J委員】

三島信用金庫伊東営業部のJと申します。菰山出身で菰山支店の方で4年間営業しております、この4月で伊東営業部に転勤してきました。伊東に来るとなると、ざっくり思い浮かべたのが、やっぱり観光地ということです。お客さんいろいろ回らせてもらっておりますけど、声として伺うのは、伊東マリンタウンは賑わっているのですが、やっぱり街中のキネマ通りなど、うちのところには全然、お客さん来ないなんていうことを聞いております。キネマ通りなど、シャッターが目立っているところでもありますので、その大きい通りだけじゃなくて、全体的にもっと地域を盛り上げていけたらいいのではないのかなと思っています。よろしく願いいたします。

#### 【K委員】

伊豆介護センターのKです。どうぞよろしくお願いいたします。弊社高齢者の介護を主に担っております。訪問介護でしたり、デイサービス、ショートステイや、あとはグループホームなども運営しております。その中の一つに、伊東市の方からも委託事業を受けまして、高齢者の地域作りというのをやらせていただいております、私今年の3月まで、そちらの方を担当させていただきました。地域の高齢者の方が、どうやったら自分ごととして、自分たちで地域を作っていけるか、地域づくりをしていけるかというのを担当させていただいております。活動を5年ほどさせていただいたのですが、高齢者の方はとっても元気です。80歳でもとっても元気な方はたくさんいらっしゃってその方たちが先頭になって、ボランティアだったり、サークルの活動とか、サロンとかやっている方がたくさんいらっしゃいました。そういった方たちがこれからも元気に暮らしていくっていうのを伊東市でも、継続してやっていただきたいなと思っております。また、私は高齢者介護の仕事をしておりますので、こういった高校生の方とか伊東以外の出身の方、それからいろいろな企業の方とお話しさせていただいて、未来ビジョン会議委員をやらせてもらうのをすごく楽しみにしてきましたので、どうぞこれから1年間よろしくお願いいたします。

#### 【L委員】

社会福祉法人、伊東市社会福祉協議会のLと申します。よろしくお願い致します。仕事内容としては、認知症高齢者や精神障害者、知的障害者などの判断能力が低下している方の権利擁護を主に行っております。そして、仕事をしている中で今感じていることというのが、単身世帯の高齢者が増加していることもありまして、それに伴って身寄りのない方がとても多いなと感じております。身寄りのない高齢者の問題として、医療同意だったりとか、入院する、あとは施設入所等するときの身元保証人がいないということ

や、亡くなった後に自宅の処分であったりとかそういったものの問題があるので、今後そういった方がどんどん増えていくのがとても課題だと感じております。

そして私自身伊東市出身で22年間、2年間ちょっと焼津市の方に住んでおりましたが、通して住んでいて感じることをして、移住者の方と、元々の地元にいる方のアンテナの感度の違いっていうのがとてもあるなというふうに思っていて、移住してきた方とよくお会いする機会があるのですが、そういった方とお会いするお店にて、20代ぐらいの若者が全然いないなというふうに思っていて、それぞれ伊東の感じ方が違うのかなというふうに感じていて、毎日通勤で使っている道もゆっくり散歩しながら歩いてみると、こんないいところがあるとか、そういった新しい発見があったりしますが、まずは、元々地元の人間が伊東市についてもっと魅力を知っていくことが必要なんじゃないかなというふうに思っております。

### 【M委員】

伊豆伊東高等学校の1年のMと申します。よろしくお願ひします。私が学生として感じていることは、若者や子供が遊べる場所や楽しめるイベントが少なかったり、イベントがあるのに知らないっていうことが多いということです。私は今年、部活動で先ほどお話されていた藤の広場で行っているマルシェのお手伝いをさせていただいたのですが、あそこでは屋台がたくさん出ていたり、ウォークラリーを行っていたり、お祭りみたいですごく楽しくて素敵なイベントなのに、学生のお客さんがとても少ないっていうのにすごく驚きました。実際に自分も伊東市でずっと育ってきたのに、こんな素敵なイベントを知らなかったというのが衝撃でした。

友達と遊ぶとなると、伊東市で遊ぶというよりは、沼津市や三島市に行ったり、伊東から出ることが多いので、そうではなくて、まず伊東で遊ぶっていう選択肢を増やすことができたらいいなと思っています。1年間、精一杯頑張るのでよろしくお願ひします。

### 【N委員】

伊豆伊東高等学校の2年のNと申します。よろしくお願ひします。私は伊東ではなく東伊豆町という、隣町に住んでいます。伊豆伊東高校に1年間通って思ったことがあるのですが、まずは学校の規模が全然違うなということなんです。私は、1クラスが少人数の学校で過ごしてきましたが、それが6クラスという、すごく大きな規模になって、自分になかった考え方とか価値観とか持っている人がたくさんいて、すごく視野が広がったなって感じています。もう一つ思ったことがあって、部活などでは、地域との交流がありますけど、学校全体としての地域との交流が少ないなと感じています。もっと地域との交流を増やして、伊東のことを好きになって、大学とか進学したとしても、伊豆伊東に戻って来ようと思えるような、地域になってほしいなと感じています。今回この未来ビジョン会議では、自分の視野とか考え方を広げるために頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

### 【O委員】

伊豆伊東高等学校の3年のOと申します。よろしくお願ひします。私は、伊豆伊東高校で観光ビジネスという事業をやっている、10数人という少ない人数ですが、今は伊

東市のプロモーション動画を作るという活動をしています。その中でいろいろな観光地が上がりますが、やっぱり多いのは、伊東市は自然豊かで、その海が綺麗じゃないところはないと言っても過言ではないくらいです。でも、それを地元民でも知らない人がいて、まだまだ他地域の人に伝えることができていないのが伊東市の課題の一つではないかなと思います。

こういうふうには高校生でもプロモーション動画を作ったりそういうことを考えたりしているので、最終的には、地元民も観光客も良い気持ちになれるような観光施策がいいと思うし、産官学の連携によって実現が可能になるのではないかなと思います。今回のテーマにも観光が含まれているということで立候補しました。1年間よろしく願います。

#### 【P委員】

伊豆伊東高等学校の1年のPと申します。よろしく願います。私は伊東で生まれ育った人間として、今年で16年になりますけど、伊東のたくさんの方の魅力を知っているのに、でも、同じ伊東に住んでいる人でも、伝わらないことがあったり、特に高校に入っているいろいろな地域から多く生徒が集まって、やっぱり伊東のことをもっともっと知ってもらいたいと思うようになりました。

この会議では特に高校生という目線から見た意見というのも多く出していきたいと思っています。具体的に申し上げますと、私達高校生は、日々勉強や部活動を励んでおりますが、その中で、将来に向けて進路を考えたときに、伊東にとどまり続けるという選択がなかなか難しい現状がありまして、このような現状を変えていきたいと思っております。高校生という未熟な立場ではありますが、少しでも多く、今後の伊東の発展に貢献できるように精一杯努めさせていただきます。よろしく願います。

#### 【Q委員】

伊豆伊東高等学校の2年のQと申します。よろしく願います。私は観光のことで、伊豆伊東高校に市役所の職員の方々が来てくださって話してくれたことがあるのですが、伊東市に来る観光客のリピーター率は高いのですが、新規の方はとても少ないという話を聞きました。地元民でもイベントのことなど知らないことがあるので、イベントなどを広げていけることが特に重要だと思っています。高校生でもそういうことを意外とできたりすることもあるので、高校生の目線で頑張っていきたいと思っています。以上です。

#### 【市長】

はい、ありがとうございます。本日欠席のR委員以外はですね、皆さん発言していただきまして、今日は17人の委員が参加しております。本日は自己紹介を兼ねてですから、これからいろいろなディスカッションができるかと思っています。大変期待できるなと感じました。

私、冒頭に挨拶をしましたけれども、私の考えを伝えなければいけないと思います。市の仕事はですね、大きく分けると二つあると思います。一つは観光など産業で外貨を稼ぐというか、やっぱり経済を活性化することが一つ。もう一つは、福祉・教育、そういう市民生活に関わることで、そのニーズを的確に捉えて、国や県と連携をとって、皆様

に良いサービスを提供する。これが二つの柱だと思っております。一つの市民に向けてありますが、インフラという問題があります。よく箱物と呼ばれますが、私は7年前に市長になりまして、そのときから公約を掲げました。伊東駅というのは昭和13年にでき上がっておりますが、佇まいは、昭和感が残っております、駅舎は、多くの意見としてはそのまま残したい、レトロ感が出てきたねということでもあります。ところが、駅前の車両とか歩行者などが煩雑になるところをどうしても変えたいと、これが私の公約でして、今着実に進んでいると言っているかどうかというところですが、私の思惑では、あと3年か4年後には新しい姿に変わっていくと思っております。それが1点。それから大きな柱が二つありまして、図書館と文化ホール、観光会館を建て直すということで、この二つを今進めております。図書館についてはですね、昨年建設が始まる予定だったのですが、皆さんもご存知だと思いますが物価や資材の高騰、今年に入っては働き方改革2024年問題とかいろいろなことが重なっております、入札がうまくいきませんでした。今は新たに再設計、少しサイズダウンしてやるということで、これはもう未来への投資、今までですね、古い図書館をずっと使っており、書庫に置いてある図書がカビだらけの雨水が入ってしまうような状況がずっと続いておりますので、将来の教育施設、あるいは文化施設として、必ず作るということでこれは今決定しております。もう一つの観光会館ですが、今の観光会館、昭和41年にできておりますので、もう既に58年が経っております。客席の椅子の数でいうと、1,000ちょっとでありますので、1,000人を集客する催し物は今少ないですが、例えば芸能人などを呼んだ興行などで集客することは可能だと思います。しかし、津波浸水区域でもありますし、耐震補強もこれ以上できない状況ですから、これも速やかにやっていくということになります。課題は、お金がかかるということでありまして、図書館についてはですね、今まで貯めてきた基金と国の補助金などでやっていくということと、文化ホール、観光会館の建て替えについてはですね、民間資金を活用する勉強をしております。例えばですが、50億円かかるという中で、いっぺんに市が負担するのではなくて、民間が建て、そこに市が毎年負担金を入れていく。そういう方式もありますので、いっぺんに負担が増えないという利点があります。今は研究中ですが、そう遠くない時期に、私がしっかり道筋をつけていくというふうに思っております。

今日は、副市長を筆頭に、教育長や企画部長、理事もおりますので、皆さんからいただいたご意見の感想やご自身の意見などを言っていただきますので、ぜひ、皆さんもインプットとしていただければと思います。

それでは、中村副市長からお願いします。

#### 【中村副市長】

皆さんのご意見を伺いまして、ありがとうございます。やはり、皆さん毎日の生活ですとか、そういったものに根付いた非常に説得力がある意見だなというふうに思いました。特に私が印象に残っているのが、多くの方がおっしゃっていましたが、本当に伊東はとってもいいところだね、でも、それが活かされていないね、ポテンシャルはあるけど、なにか寂しいねって、そんな意見が結構多かったかなというふうに思っております。私も意見にあったように、駅前が寂しいということと、伊東の良さがなかなか伝わっていないのではないかと、この二つについては、本当に大きなテーマだというふうに思っております。まず商店街も含めた、駅前の賑やかさみたいなところの話ですけ

ど、お隣の熱海市が結構いろいろなメディアで紹介されるのは、熱海駅から下に降りていく商店街のところにいろいろなお店ができて、そこに若者が集まってきて、結構混雑している、行列ができていうふうな絵を見ると、熱海ってすごいねっていうふうになると思います。ただ、伊東はやっぱり駅だけではなくて、いろいろなところにいる資源があるので、人が集中し混雑するっていうふうな風景がないので、そうなっているのかなっていうのは思っておりますが、やはり駅前が寂しいっていうことは、事実としてあると思います。私も個人的に担当にも言いましたが、いろいろな商店街に対する補助金みたいなものがありますが、それを何とか駅前だけ嵩上げて、駅前にいろいろな商店が来るような仕組みを考えてくれないかっていうこともリクエストしておりますが、なかなか現実になっていないというのが現状です。もう1個その伊東の良さが伝わってないという面で言うと、これもずっと何年も前から指摘されていることで、もっとプロモーションっていうものをちゃんとやろうねということで大手のある旅行会社の方にいろいろアイデアを出してもらって、この方向でいこうということも、方向性は出ておりますが、コロナ禍もあり、お客さんが増えたという成果が出ていないのが実態です。その二つについて、ぜひこの皆さんの斬新なアイデアを出していただいて、僕らが考えられないような処方箋が、この会議の中でいろんなアイデアとして出てくればいいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いたします。以上です。

#### 【岸副市長】

ご意見ご紹介ありがとうございます。私は副市長になって今年で2年目になりますが、それまでの間、役所人生の中のほとんどを教育と福祉の中で、現場で過ごしてまいりました。ですので、K委員のおっしゃった、あの高齢者のサロン作りなんかも、自分も関わっていたところがあり、教育委員会も教育長と一緒に十数年間おりました。

私の持論を申し上げますと、人が一つのことに夢中になって自分を高めていくためには、三つの条件があると思っております。その一つは、場があること。今まさしく皆さんは、未来ビジョン会議という場を得ました。もう一つは指導者がいるということだと思います。指導者というのは、もしかすると企画の担当者が導いたりすることもあるかもしれませんが、高校生の方から見れば先生方もいらっしゃるということもあるかもしれません。三つの条件の三つ目は、一番重要ですが、仲間がいるということが、その人が継続して自分を高めるための三条件だというふうに私は仕事の中で学んでおります。なので、この1年間、この場を使い、それぞれが指導者となり、そしてこのご縁で繋がった仲間とのいろいろな、さっき高校生の方が言いましたが、いろいろな価値観の方から意見を創造して作っていくというのが、探究活動の根っこの部分ですし、これから世界に向かって仕事をしていく若い人たちにとっては、自分の課題、自分が手に入れた情報を、みんなとぶつけ合って新たな価値を見つけ出すっていうのはまさしく探究活動ですよ。そういうことで、ぜひ1年間力を発揮していただければと思いますし、とても楽しみにしております。よろしくお願いたします。

#### 【教育長】

ご紹介ですとか、たくさんのご意見をですね、今日お話をしていただき、聞いていまして、大変自分自身勉強になりました。その中で皆さん方が話をしている、伊東の良さ、いろいろなところでやっぱりその伊東の良さがあると思いますので、そういうのを

いろいろな職種の方ですとか、高校生とこうやって膝を交えて話せるというのは非常に楽しみだなということを強く思っております。だから遠慮しないで、高校生もいろいろな意見を、自分の思いをこの場でぶつけていただけたらありがたいと思います。

また、教育委員会ですが、ここの5階にありますので、またぜひ高校生も立ち寄っていただけたらと思いますし、今教育委員会の方では、幼稚園、それから保育園、小・中学校の所管をしております。人数にして、約4,300人の子供たちをですね、いろいろなことでお世話をしているわけですけども、感じているのは、非常に昔と違ってですね、多様化しているなということを強く感じます。多様性といいますか、そういうものをみんなで認めていこうというそういう気持ちもありますし、また、多様性がいろいろなところで芽吹いていて、力を発揮しているなということも感じますし、そういうのを自分が青春時代のときと比べると、本当に違うなということを感じています。そういうのを議題にいれていただきながら、伊東の教育を更に充実させていっていただけたらいいかなと思っておりますので、またご意見をお聞かせいただけたらと思います。今日はありがとうございました。

### 【理 事】

今皆様のいろいろなご発言を聞かせていただきまして、高校生の方もそうですけれども、いろんな職種の方が伊東市に対して、いろいろな思いを持っているということがすごくよくわかりました。私は、今沼津市に住んでいるのですが、毎日JR東海道線と伊東線で一時間半ぐらいかけて通っております。なかなか一時間半というのも結構長い時間ですけども、そういったときに伊東線に乗っていて、外を見ると、特に天気の良い日には、すごく景色がよくて海もよく見えて、山の方を見れば海とはまた違った景色が見れる、そんなところがあってですね、私、通勤で来ているのですが、天気の良い日は、今日は観光で伊東に来たというようなことを思いつつ、自分自身のモチベーション上げるような形で、市役所の方に来ております。

私は伊東市の理事として2年目になるのですが、その2年よりも前は静岡市にある静岡県庁というところで勤務しております、従事していた業務は、直近では企業立地推進課というところにおりまして、そこでは伊東市とはなかなか合わないのですが、大規模な工場とか、食品工場などの企業を県内に誘致をし、そこで雇用創出とか、地域の活性化をしていただくというようなところを、市町の職員と一緒にやっていたということもあります。伊東市の方では、そういった業種というより、今、力を入れているところだと、企業誘致としては、IT企業などのサテライトオフィスとか、あと、コワーキングスペースなんかを誘致するというようなことを主体的にしております。なので、私は市の職員ですけども、県の職員の身分がかなり長かったものですから、様々な部署を経験しております、県庁もそうですけれども、出先機関の方にも勤務をしているというところがありますので、今回の未来ビジョン会議で皆様がいろいろ議論する中で、私の今までの経験や、知識的なものが少しでも役に立ち、皆様の活発な議論に繋がれば幸いであると思っております。この未来ビジョン会議、かなり長丁場になると思いますので、最初は緊張しているところもあろうかと思っておりますけれども、ご自分で感じたことを包み隠さず普通に会話をするような感じでご発言いただければ、そういったものを拾っていただける方っていうのもいらっしやると思いますので、ぜひ、今回委員になっていただいた方には、この未来ビジョン会議を通じて、伊東を少しでも良くし

ていくというような意気込みを持っていただいて、対応をしていただければというふうに思います。私からは以上でございます。

#### 【企画部長】

今日はいろいろな貴重なご意見ありがとうございました。私は生まれも育ちも伊東市でございまして、大学の4年間だけ、東京の方に行っておりまして、外に出てみて改めて伊東の良さを再認識したというところがございました。やはり皆さんおっしゃる通りに、伊東ってすごくいいところなのにまだまだPR不足なのか、そういったところが下手なのか、なかなか外の皆様に伊東の良さが伝わってないのかなということも私自身も感じております。今回未来ビジョン委員をお受けいただいたということですので、いろいろな立場の方がいらっしゃると思います。そういったいろいろな立場からご意見をいただきながら、これから伊東を良くするというような、アイデアをどんどん提案していただきながら、それを私どもが少しでも形にしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。特に高校生の皆さんはこういった場ですごく緊張するのかなと思ひていたのですけれども、しっかりとご自身の意見を言っただいて、とても素晴らしいなと思ひました。私が高校生だった頃は、そんな意見は絶対言えなかったなと思ひます。将来もし職業を選択するということになれば、伊東市の職員を一つ選択肢に入れていただければ幸いなと思ひます。皆様の素晴らしいアイデアを期待しております。以上です。

#### 【市長】

というわけで、企画課長をはじめとして企画課が進めていきますが、本当にこの場で皆さんがジャストアイデアというか、思いつきでも何でもいいです。とにかく伊東にこうあってほしい、あるいはこういうものはどうかと出し合っただく会でございしますので、ぜひ思っただことあるいは今日以降ですね、いろんな見方もまた変わると思うので、ぜひ何かに書き留めていただいたり、今時代としてはですね、スマホを使っただ、とりあえず写真を撮っただおいていただいたり、いろんなやり方があるかと思ひますが、ぜひ新しい着眼点を持っただいただければ幸いでございします。

それから、さっき私言っただれたのが、ふるさと納税、これ皆さん大体わかると思ひますが、市外に住まわっただいる方が伊東に納税をすっただいただく、その方は納税した部分があ、住民税が減税になるという利点があるということの積み重ねでありますがあ、伊東市も今年度8億円を集めようということであ進め始めました。ただ、私はもうこの際、その上の10億の桁までいきたいなと思っただおりまして、皆さんにもう一つお願ひすっただおきたいのは、返礼品のアイデアです。これ伊東ですから、旅館ホテルとか、ゴルフ場とかですね、そういう体験型が大変多く納税の主流になっておりますがあ、いろんなことをですね、そういうもので伊東に興味を持っただいただく、情報発信とか、観光でまた訪れっただいただくためのツールとして、その返礼品のアイテムを1,000まで増やそうということであ、現在300数十ですから、まだまだ3分の1程度です。ぜひ皆さんからもアイデアをすっただきたいと思っただおりますので、付け加えさせっただきたいと思ひます。今日、なかなかやりとりはできませんがあ、高校生の皆さんもいらっしゃる、8時までには必ず終わるという会議体制をすっただきたいと思っただおりますので、今日はこのあたりで締めさせっただきたいと思ひますが、今後またおそろく10回に近い回数で

開催されるではないかと思いますが、ご協力をお願い申し上げまして、会議を閉じさせていただきます。最後に運営方法などについて事務局からの説明がありますので少しお聞きください。

- (5) 閉会  
事務局から今後の運営及びスケジュールについて説明。

以 上